

世界初の刊内寄生紙

発行日：『ふあるせえた』に準ず

編集・発行：吉川二郎

〒666-0129 川西市緑台

7-8-8-203

月刊『ジロリト』

新しい楽器 “ギタルパ” のこと (2)

吉川二郎

新しい楽器“ギタルパ”の発想を得て、特許関係の仕事をしている友人に相談。ギタルパの原理を説明すると充分特許が取れるだろうと言ってくれ、出願の書類をまとめてくれた。平成7年5月に特許の出願。平成14年11月、「拒絶の理由を発見しないから、特許査定する」との連絡があり、多弦楽器として特許査定され、特許証(特許第3385518号)が送られてきた。

ギター(guitarra)とハーパ(arpa)が合体したのでギタルパ(guitarpa)という名前はすぐに思いついたが、この名前も登録しておかねばと思い、平成16年1月に商標登録出願、同年8月、商標登録証取得(第4795605号)。

体制は整い、楽器本体は平成6年からコツコツと改良しながら12台を自作し、十分演奏できるものできていた。しかし、ギター関係の工場に通って商品化を試みても製作現場の人が楽器を理解できず、プロトタイプとなる楽器そのものを私自身が作らなければならないという状況で行き詰まっていた。

昨年、スペインの伝統的木製象嵌のタラセア作家、星野尚氏と親しくなり、是非ギタルパにタラセアを施してもらおうと思立った。星野氏も普段は2次元の絵画の制作なので、3次元になる立体物を個展で展示してみたいという希望があったようだ。また、ギタルパ本体の製作は、竹製

のギターなども製作しているギター作家の宇野充氏にお願いし、今年の春、念願のタラセア付ギタルパの第1号が出来上がった。ギタルパは、この楽器そのものだけでも充分美しい形をしていると思っているが、一流の工芸を施すことによって、より完全な工芸品となる。両氏のご協力により、すでに2台目も出来上がっており、世界に一つしかないタラセアがはめ込まれている。この楽器は、星野尚氏の個展で展示されることが続くと思われるので、3台目、4台目の完成が待たれる。

去る10月4日および10月9日に大阪と伊丹で星野尚氏の二つの個展があり、そこで1代目のギタルパを使って披露演奏をした。その後、11月9日に神戸、11月28日に富士のコンサートで演奏し、各地の聴衆の反応に充分に手ごたえがあった。すぐにでもこの楽器をほしいと

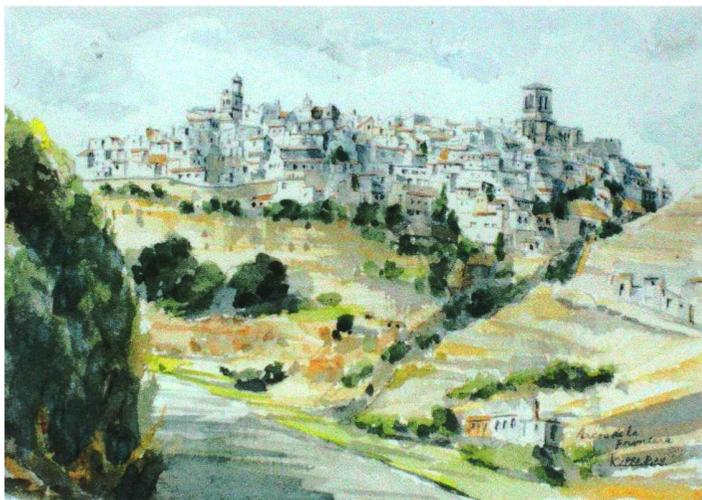
いう人もいたが、残念ながらそれはもうしばらく待っていただくしかない。特に富士ではギタルパ・サークルができそうな勢いである。

これらの演奏会でのギタルパの評判で、特に音が素晴らしいと言ってもらえることが多く、音量増幅用のテーブルとケース代用の音響箱で音量も充分にあり、コンサート用の楽器としても魅力的である。この音響用のテーブルとケースは、これからまだまだ改良の余地があり、生音のスピーカーとして研究が必要だと思っている。

この次は、12月11日(土)に大阪南港のハイアットリージェンシー・オーサカのチャペルでギタルパを響かせてみるつもりだ。

似合う子も似合わない子も七五三
暗闇に光る眼六つ狸道

一葦



アルコス遠望(スペイン・アルコス・デラ・フロンテラ)鉛筆水彩 金